

なかのなっちょ隊 通信

H30年度 Vo.9

～支え合いの地域へ～

なかのなっちょ隊（生活支援体制整備事業 第1層協議体）とは

「なっちょだい？」と声をかけあいながら、みんながつながって支え合えるよう、地域が求めているもの、地域に求められているもの、をみんなで考え、見つけ、情報を発信していく場。

参加団体：

社会福祉協議会、北信総合病院、ジェイエイ・アップル、高水福祉会、シルバー人材センター、介護支援専門員連絡会、民生児童委員協議会、長寿社会開発センター北信支部、中野市



2月18日、

『みんななっちょだい？』

～話そう！支え合いの地域づくり～

が開催されました。



支え合いの地域づくり実現にむけて、なかのなっちょ隊と地域の皆さんと一緒に話し合う初めての場であり、11月に開催された「支え合いの地域大交流会」に参加された方を含む、33名の地域のみなさんがお越しになりました。

この日は「支え合いの地域大交流会」での振り返りとして、交流会の感想や新たに生まれたつながり、そ

して参加されて想いの変化、等を皆さんと振り返りました。

出展団体の多くが次回の交流会への参加を希望されており、何かしらのつながりが得られた団体が多く、他団体や参加者と交流する事や、活動をアピールすることの意義を改めて感じました。

【大交流会に参加して】

- 新規参加者ができた
- 活動への依頼があった
- 活動についての問い合わせがあった
- 知らなかった活動を沢山知れた
- 他団体の活動を見に行く予定
- 他団体と一緒に活動する予定
- 応援の声に励まされた
- 他団体の活動に刺激を受けた

次に、『支え合いの地域づくりに向けて、地域のなかでやってみたいこと』をテーマに、グループ毎に話し合いました。

とてもにぎやかな雰囲気、どのテーブルも活発な話し合いとなっていました。

最後に、アンケートをご記入いただきましたが、「生の声が聞け、想いが伝わった。」「仲間作りの必要性を実感した。」「地域づくりは何回も話し合うことが大切。」等のご意見をいただき、今回参加された方の多くが今後も地域づくりを考える場への参加を希望されていました。



次回なかのなっちょ隊では、この日参加希望いただいたみなさんや、大交流会でエントリーシートにご記入いただいたみなさん、合わせて14名の方々と共に、今回の話し合いで出された想いを実現できるよう考えていきたいです。

支え合いの地域づくりに向けてやってみたいこと

- ☆高齢者と子供が交流できる場
- ☆有償ボランティア
- ☆買い物の場
- ☆男性が活躍できる場
- ☆空き地で野菜作り
- ☆見守り活動
- ☆移動図書館

《支え合いの地域づくり実現に向けて必要な事》

- ※交流・話し合いの場
- ※他市町村の活動事例を聞く
- ※活動のための講座（気持ちづくり・仲間づくり）
- ※支え合いの地域づくりに関する講演会
- ※地域資源情報を集めた冊子、マップ

中野市高齢者支援課
生活支援コーディネーター：小島杏子
電話：22-2111(内線 366)

【メモ】生活支援コーディネーターとは…

支え合いの地域づくりに向けて、
①地域の中で支え合い活動が生まれるよう、広がるよう、人・場・活動・情報などをつなぎます。
②地域の支え合い活動（『地域のお宝』）を、目に見えるように・活用できるように・役割がわかるように、発信します。

生活支援コ-ディネーター活動日誌

【豊田地区 小さな拠点づくり】

2月24日、豊田地域で『小さな拠点 キックオフイベント』が開催されました。

『小さな拠点』の開所式、『住民ワークショップ』でのグループワークの掲示、『暮らしを支える地域運営組織の可能性』と題した講演などがありました。



地域の方が気軽に集える場である『小さな拠点』は、豊田文化センター内に開所され、お茶飲みスペースの他、将棋・麻雀もできるスペースも設けられていました。

文化センターで開催される講座や教室の前後にお茶を飲んだり、地域の女性のみでなく男性も気軽に集える場になるのではないかと感じました。

「豊田地域の課題や魅力」「理想の豊田地域の実現に向けて」というテーマでこれまで2回地区の方々と話し合った『住民ワークショップ』では、「いきがい」「魅力ある農業」「住みやすい地域」「交通・買い物」「助け合い」「交流」などといったことについて、様々な意見が出されました。

今後は、地域の有志による『豊田地域運営協議会』が主体となって、「住み続けられる豊田地域」実現を目指し話し合いを重ねていく予定です。

使用されなくなる小学校を、世代間交流の場に利用できないか。



『住民ワークショップ』

就農体験で人を呼べないか。農業を教えられる人なら沢山いる。



住民有志が運転手となって、交通手段を生み出せないか。

講演では、「歩いて意思伝達ができる距離が昔の村。地域の手で作ってきたもので生活が支えられてきた。暮らしの知恵は一人ではできない。共同の力で、寄り合って話し合いながら、あるをつくして(今ある資源を利用して)。『結=まけ』の精神が大事。押し付けられるのではなく、活躍できる場が広がると考え、地域づくりに取り組むことが大切。」といったお話を聞きました。

運営協議会会長からは「小さな拠点が大きな拠点に変われるような成長を」といった想いが聞かれました。



『安心して暮らし続けられる地域』実現に向けては、そこに暮らす人々が地域毎に課題や想いを話し合っていくことが不可欠ですが、豊田地域はその一歩を踏み出しました。

【北部生きがい大学】

中野市北部公民館では、『シニア世代の生きがいづくり、仲間づくり、学習の場』として『北部生きがい大学』を冬季に開催しています。

参加者は北部地区の方が多くようですが、テーマによっては他地区からの参加者や、男性の参加者もいらっしゃいます。

何年にも渡り参加されている方や、全10回皆勤される方もいらっしゃるようです。



こちらの講座の特色として、講座終了後に『ふれあいサロン 茶房 ikigai-いきがい-』といった交流の場も設けられています。

この『茶房いきがい』は、当時の北部公民館長の「集う場、サロンを作りたい。」といった思いから、講座終了後のお茶飲み場として作られました。

現在は、講座終了後10名程度の方がお茶を飲みながら交流されているそうです。

講座に参加すること自体も社会参加ですが、ともすると講演を聞くのみで、他の方と会話をする機会が無い場合もあるかと思えます。

外出し、さらにその先で他者と会話し交流する、このことがより有意義な社会参加となり、介護予防につながっていきます。

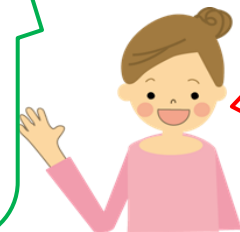
健康のために歩いて参加する人も多んだよ。

ここの講座は冬場の楽しみだね。何度も参加しているうちに他の参加者とも親しくなるね。



『茶房 いきがい』では、その日の講師もお茶会に参加することがあり、講演では聞けなかった質問なども詳しく聞けることもあるそうです。

ちょっとした困り事を手助けしてくれるようなボランティアさん、地区の方が気軽に集まれるような場、高齢者に優しいお店やサービス、地域の中で活躍されている方等の「地域のお宝」情報を教えてください☆



安心して年齢を重ねられるよう、「支え合い」や「あったらいいな」と思うものを、地域みんなで考えてみませんか？